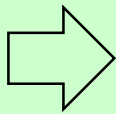


事業を契機に経営面積を倍増、法人化してベビーリーフの生産拡大 ～（株）いで葉工望 代表 成田 浩輝～

経営体の概要

関連ほ場整備実施前：平成16年度
基幹作物：水稻
経営面積：自作地2.5 ha



現在：令和元年度
基幹作物：水稻4.8ha、飼料用米3.2ha
(法人ベビーリーフ0.6ha)
経営面積：自作地2.5ha 借地5.5ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

国営事業により農業用水が安定的に供給され、関連事業のほ場整備により水田が大区画化・汎用化されたことを契機に、地域農業の担い手として農地の利用権設定を進め、経営規模を拡大している。

基幹作物は水稻が主体であったが、平成18年度以降、パイプライン化により水管理等の労力が削減され、また、暗渠整備でほ場内の排水が改善されたことにより、高収益作物であるベビーリーフのハウス栽培が可能となり、現在では0.6haまで生産規模を拡大している。

更に平成30年度に（株）いで葉工望を設立し、ベビーリーフの生産・出荷体制を強化することにより、農業所得の向上を実現している。

営農改善のポイント

① 作物の変化

平成18年度以降、国営事業で農業用水が安定供給されたことにより、水管理等の労力が削減され、また、ほ場整備事業で給水栓と併せて、暗渠整備により排水性が改善されたことにより、平成26年度にハウスでのベビーリーフの周年栽培に着手している。

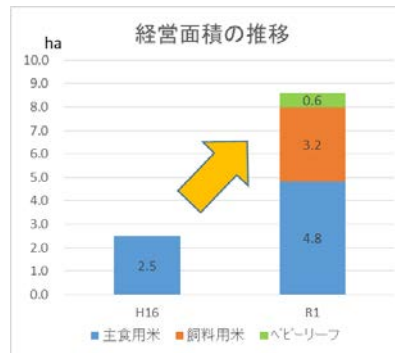
種苗会社や卸売業者から新品種や市場ニーズなどの最新情報を取り入れつつ、ベビーリーフとして常時10種類の野菜を組み合わせ生産することで、年間を通じて安定した出荷量・品質を確保し市場の引き合いも強い。

② 機械・施設の導入・整備

事業実施前は、集落営農組織がなく、個々の農家で水稻などを栽培していたが、関連事業のほ場整備事業を契機に、本経営体を中心とする専業農家が大型機械を共同所有し、集落の主食用米、飼料用米の栽培も請け負うなど、農作業の効率化を進めている。

③ 規模拡大・土地利用調整

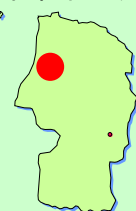
関連事業のほ場整備事業により標準区画1.2haに大区画化されたことを契機に、大型機械を導入し、事業実施前の約2.5haから現在は約8haと経営規模拡大を実現しており、専業農家として地域の中心的な担い手となっている。



事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：酒田市、鶴岡市、庄内町
受益面積：12,573ha
事業期間：平成13年度～平成23年度
事業目的：用水改良
主要工事：頭首工2箇所、揚水機場2箇所
用水路L=2.7km新設、L=31.7km改修

位置図（山形県）



最上川下流沿岸地区

<問い合わせ先>

東北農政局
農村振興部農地整備課
電話：022-263-1111
(内線4460)

(令和元年度調査時点)